

岩手医科大学報

Iwate Medical University News

2013・8 vol.443

●発行者—理事長・学長 小川 彰 ●題字—大堀 勉



オープンキャンパス2013

〈写真撮影：7月27日(土)、28日(日) (関連記事：P7)〉

おもな内容

- 巻 頭 言 健康管理センター長就任のご挨拶 健康管理センター長 黒坂 大次郎
- 特 集 子どものこころに寄り添う中核的な施設として～いわてこどもケアセンター～
いわてこどもケアセンター副センター長 八木 淳子
- トピックス 小中高生を対象とした体験学習イベントが開催されました
- フリーページ すこやかスポット歯学講座No.12 「マイクロスコープを使用した歯科治療」
歯科保存学講座う蝕治療学分野 助教 岡田 伸男

健康管理センター長 就任のご挨拶



健康管理センター長 黒坂 大次郎

こ のたび定年で御退職された嶋村正前
健康管理センター長の後任として、
平成25年4月1日付で健康管理センター長の
大任を引き継ぎました。平成17年の設立以来
4代目となります。皆様にご指導いただきな
がら、職員・学生の健康管理を着実に進めて
いきたいと思っておりますので、どうかよろしくお
願い申し上げます。

医 療は日々進歩し、その先端を走る岩
手医大にあっては、医療関係者の
日々のストレスは大きなものだと思います。
さらに病院の矢巾移転・内丸メディカルセン
ター設立が本格的に動き出し、そのストレス
は、今後ますます増大してくると思われま
す。一方、薬学部は6学年そろい、約1.5倍に定員
増加した医学部学生もそろい、学生数は大幅
な増加になりました。医歯薬系では、卒業時
に国家試験という難関が待ち構えており、そ
のストレスも大きなものになっています。ま
た、これら医療スタッフや学生を支える事務
系職員の方々も、必然的に業務が増え、スト
レスが増加しています。

し かしながら、最先端の医療の拡充、
充実した学生生活と国家試験の合格、
新病院の建設と順調なオープンは、どれもが

岩手医大の今後の飛躍には欠かせない重要な
課題です。また、相互に影響し合う事項です
から、どれひとつがうまくいかないことがあ
ってはなりません。これらにみなが一丸とな
って対応するためにもその基礎となるのは、皆
様の健康です。その管理に欠かせないのが、学
生・職員の定期健康診断です。どうか定期健
康診断は、最低限受診していただけますよう
にお願い申し上げる次第です。

こ れだけの大所帯ですから、365日誰か
しら健康状態に問題が生じるのは、
当たり前のことかもしれません。幸いにも当
健康管理センターでは、師長以下スタッフが
その責務の重大さを自覚し、職員・学生皆様
からさらに信頼されるべく日々頑張っていま
す。

私 としましてもこれらのスタッフに支
えられながら、この難局を乗り切る
べく、努力してまいる所存です。どうか今後
もご理解とご協力いただけますように重ねて
お願い申し上げます。

特

子どものこころに寄り添う中核的な施設として

集

～いわてこどもケアセンター～

いわてこどもケアセンター副センター長
神経精神科学講座講師

八木 淳子



いわてこどもケアセンター発足の経緯

2011（平成23）年に発生した東日本大震災津波は、子どもたちのこころの健康に大きな影響を及ぼしています。3月11日の地震発生時刻には多くの子どもたちが学校や保育所・幼稚園におり、教員や保育士さん達の指示で避難することができました。しかし、逃げる途中での壮絶な光景の目撃、家族や友達の喪失、自宅や学校の損壊、避難所生活や仮設住宅への転居など、この子どもたちの体験は筆舌に尽くし難く、そのこころに抱える痛みや悲しみはどれほど大きく深いことでしょうか。子どもたちのこころのケアのための現地拠点の設置を求める声を受けて岩手県は、同年6月、宮古児童相談所の一室を借りて「宮古子どものこころのケアセンター」を開設してパイロット的に運営し、やがてこれをモデルとして7月には気仙地区、8月には釜石にも「子どものこころのケアセンター」が設置されました。保健所の一室や児童家庭センターの一室が診療場所となり、県内外の医師が定期的に派遣され、約2年間で延べ722人が受診しました。9割の子どもたちが未就学児と小・中学生であったことから、長期的なケアの必要性が見込まれました。

平成24年1月には、岩手県児童家庭課が事務局となり、医療・福祉・教育の各分野における有識者からなる「東日本大震災津波子どものこころのケア推進プロジェクトチーム（PT）」と実務レベル担当者からなるワーキンググループ（WG）が組織され、東日本大震災中央子ども支援センターと連携しながら、震災後の岩手県の子どものこころのケアの推進とその具体的支援策について検討を重ねました。その中で、被災地域の子どものみならず、内陸部に転居してきている子どもたちへの支援も可能にし、子どものこころのケアを医療的側面から中長期的に担う「中央センター」の設置が望まれました。そこで岩手県は、こころのケアにノウハウがある岩手医科大学に運営を委託し、日本赤十字社の協力のもとクウェートから寄せられた義捐金によって、岩手医科大学矢巾キャンパス災害時地域医療支援教育センター・マルチメディア教育研究棟内に「いわてこどもケアセンター」を本年5月に開設しました。

岩手県子どものこころのケアセンター 診療実績

利用者数	開設日数	受診者数 (延べ)	受診者数 (実数)	平均利用者数/日	平均利用回数/人
H23.6 ～H24.3	85日	287人	108人	3.3人	2.6回
H24.4 ～H25.3	115日	435人	99人	3.6人	4.4回
合計	200日	722人	207人		

本センターの組織体制と児童精神科クリニックについて

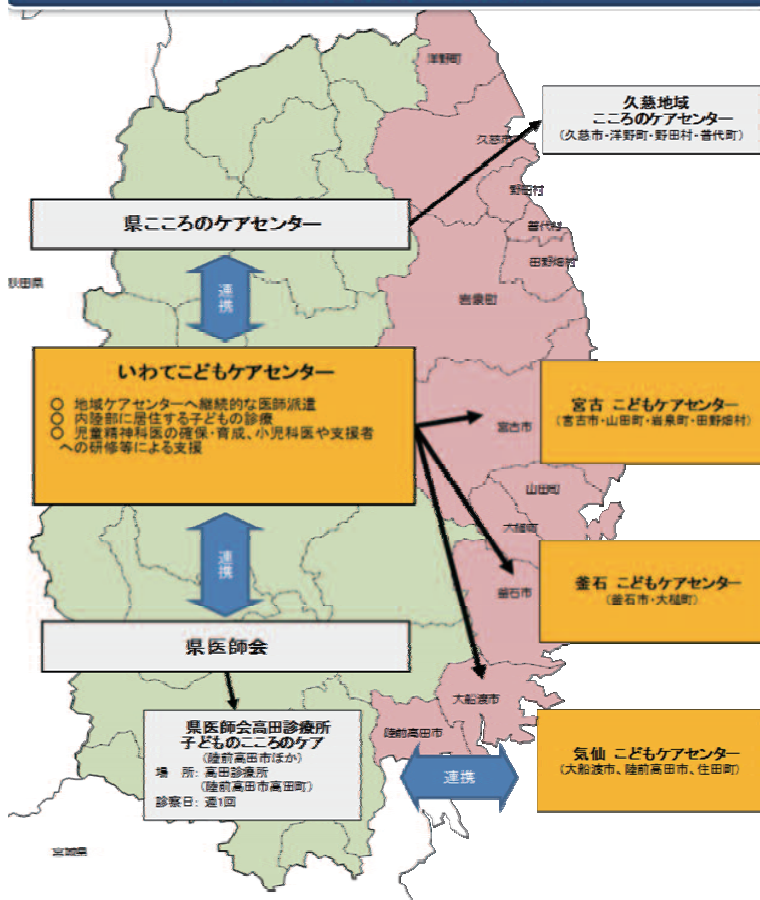
いわてこどもケアセンターの機能

1. 精神医学的介入と治療(医師派遣/診療)
2. 疾病・心理教育と相談(コンサルテーション)
3. 啓発活動・研修と研究
4. 人材育成(子どもに関わる専門職の確保)
5. センターの運営業務

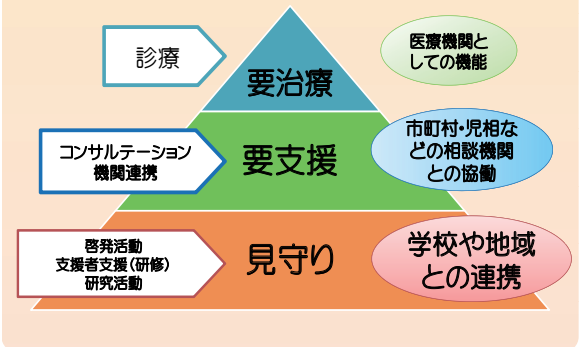
いわてこどもケアセンターは、本年5月に矢巾センターでの児童精神科外来診療と3つの沿岸部ランチでの巡回診療を開始しました。酒井明夫センター長の下、診療、相談(コンサルテーション)、研修・研究、人材育成の機能を併せ持つ子どものこころのケア専門機関です。

前身の「子どものこころのケアセンター」の活動を継承・発展させる形で、宮古・釜石・気仙の3地区の県立基幹病院内での巡回診療を毎週1回実施しており、矢巾センタースタッフ(児童精神科医、看護師、臨床心理士、作業療法士、精神保健福祉士など多職種)がチームを組んで出向き、子どもと家族への包括的な継続支援の展開を目指しています。

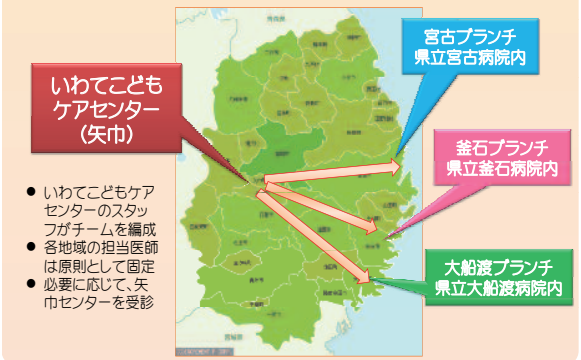
こどもケアセンター体制図



こどもケアセンターの取り組み



沿岸ブランチへの巡回診療



センター施設

当センター内部は、木の温もりを生かし、グリーンをベースに森をイメージした造りになっています。診察室・面接室のほか、セラピールーム、プレイルーム、アクティビティルームなどを整備し、トラウマ焦点化認知行動療法 (TF-CBT) のほか、プレイセラピー、SST、運動や創作活動をおこなうショート・デイケア、ペアレントトレーニングなど、さまざまな専門療法を行います。矢巾中央センターと沿岸ブランチの連携のもと、沿岸地域の子どもたちも必要に応じて中央センターを受診するなど、より充実した全県的な診療体制が実現しました。



センター入口前 (写真左: 友好記念プレート) →

↓ (上) センター受付
↓ (下) プレイルーム

↓ グリーンをベースにした廊下



多職種症例検討会、研究、その他の活動について

子どものこころのケアは、医療のみならず、教育・保健福祉などの多職種が連携した包括的な取り組みを必要とします。いわてこどもケアセンターは、多職種による症例検討会を県内各所で毎月開催し、岩手県内の子どもの支援者が有機的に連携する仕組みづくりを推進しています。また、さまざまな研修会の企画・運営、被災後の子どものメンタルヘルスに関する研究、医師の専門研修・育成などの役割も担っています。

今後の展望

震災後3年目を迎えて、子どもたちが現す身体症状や精神症状はさまざまで、不登校や問題行動などといった形でこころの痛みや悲しみを表す子どもたちも少なからず存在します。これらの症状や問題は、一見震災とは関連がないように思われても、治療が進むにつれて震災との関連が明らかになることもあります。阪神淡路大震災以降、



「こころの回復は、はさみ状格差として進む」と言われてきましたが、今回の震災の被害の規模を考えると、子どもを取り巻く環境としての家庭、学校、地域の回復が遅れており、潜在的な生物学的問題や心理社会的問題が顕在化し、さらに複雑化していくことが予想されます。子どものこころのケアにおいては、子どもを養育する大人への支援も不可欠な要素となりますが、環境の影響を受けながら成長発達していく子どもたちの育ち全体を見渡した包括的な支援を、隣接する岩手県こころのケアセンターと連携しながら強化していくことが望まれます。

岩手医科大学募金状況報告

● 総合移転整備事業募金 ～皆様のご厚志により支えられています～

平成21年6月から始めました岩手医科大学総合移転整備事業募金に対し、格別のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

皆様のご厚志は、大学発展の大きな原動力となるものであり、本事業の早期達成のため有効に活用させていただいております。

今後とも関係各方面からの格別なるご協力・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

今回は22回目の御芳名紹介です。(平成25年5月1日～平成25年6月30日)

※御芳名及び寄付金額は、掲載を希望されない方については掲載していません。

会社・法人等

<30,000,000円>

株式会社 こずかたサービス (岩手県)

<御芳名のみ記載>

医療法人 星が丘瀬川皮膚科クリニック (岩手県) (敬称略)

個人等

<1,000,000円>

佐原 元 (医13)

<100,000円>

山本善邦 (一般)

<御芳名のみ記載>

内村 忍 (医22)

(受付順、敬称略)

これまでの募金累計額

区分	申込件数	募金金額(円)
圭陵会	471	380,672,000
在学生父母	192	170,140,000
役員・名誉教授	40	70,910,000
教職員	118	18,735,000
在学生	1	100,000
一般	120	428,442,922
合計	942	1,068,999,922

(平成25年6月30日現在)

体育大会壮行会が行われました

7月1日(月)、矢巾キャンパス体育館で体育大会壮行会が行われました。この催しは、「東日本医科学生総合体育大会」「全日本歯科学生総合体育大会」を始め、岩手県民体育大会など各種体育大会が夏期に行われることから、参加する学生を激励するために毎年行われているものです。

壮行会では、小川学長をはじめ、祖父江副学長や学友会総務局委員長の谷村史人さん（医学部4学年）などが激励の挨拶を述べました。続いてハンドボール部の洞口俊さん（医学部4学年）が選手宣誓を行い（左写真）、学友会体育局有志が参加学生にエールを送るなどして、士気を高め合いました。



医療安全対策講習会が行われました



医療安全対策講習会が、7月2日(火)から6回（録画映像による開催含む）にわたって歯学部棟4階講堂で行われ、総勢約1,400名の職員が参加しました。

講習会では、京都市立病院放射線科診療部長の早川克己先生を講師（左写真）に迎えて「造影剤の安全性－CT検査で注意すべき患者とは－」と題した講演が行われました。

参加者は熱心に聴講し、造影CTにおいて禁忌に相当する患者さんの判断基準や造影剤を投与する場合の注意事項について理解を深めました。

花巻温泉病院で「七夕さんさ会」が行われました

7月12日(金)、花巻温泉病院で「七夕さんさ会」が開催され、浴衣姿の職員達が笛や太鼓、唄、踊りを演じ、職員手作りの水ヨーヨーやお茶などの飲物などが患者さんに配られました。

当日は、雨天のため屋内での開催となりましたが、職員が「七夕くずし」「栄夜差踊り」「よさこいソーラン」を披露すると、踊りに合わせた患者さんの手拍子が会場内に鳴り響き、お祭りさながらの活気溢れる催しとなりました。

この「七夕さんさ会」は、盛岡さんさに向けた練習成果の披露を兼ねて、例年7月の七夕会に合わせて開催されています。



オープンキャンパス2013が開催されました

7月27日(土)・28日(日)の両日、矢巾キャンパスにおいて、「オープンキャンパス2013」が開催され、岩手県内をはじめ全国各地から高校生とその保護者など約1,000名が参加しました。

当日は、小川学長による大学紹介や希望する学部に分かれてのミニ講義、体験実習のほか、学食の無料体験、在学生とのフリートーク、教員による個別相談、災害時地域医療支援教育センターとドクターヘリ基地の見学など盛りだくさんの企画が用意され好評を博しました。参加した高校生らは、大学生活に夢や希望を膨らませていた様子で、将来の進路を決めるための有意義な機会となったようです。



小中高生を対象とした体験学習イベントが開催されました

7月27日(土)・28日(日)の両日、矢巾キャンパスにおいて、体験学習イベント「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室～KAKENHI『観て納得、聴いて納得、薬は楽しい～眼に見えないくすりの世界への招待状～』」が開催され、岩手県内の小中学生及び高校生67名が参加しました。

このイベントは、日本学術振興会が実施している科学研究費助成事業（科研費）の研究成果を社会還元・普及するとともに、将来を担う児童・生徒の実験に対する興味を促進させ、将来の科学・薬学の発展に寄与することを目的として開催されました。



初日は、くすりの正しい服用方法を学ぶ「おくすり教室」が小学生を対象として実施され、二日目は、中学生を対象として人体の特徴や個人差を学ぶ「体の神秘－心筋細胞と神経細胞－」と「くすりの効き方が人によって違うのはなぜ？」また、高校生を対象として「リポソームの調製と観察」が実施されました。

参加した児童・生徒は、実験の過程で変化していく様々な現象に眼を輝かせて観察するなど、薬の飲み方や薬に関する最先端の技術を楽しんで学んでいる様子でした。

表彰の栄誉

大学院医学研究科2年 美藤 文貴 医師が 第38回日本睡眠学会定期学術集会ベストプレゼンテーション賞を受賞しました

6月27日(木)・28日(金)の両日、秋田市で開催された第38回日本睡眠学会定期学術集会で報告させていただいた、私の研究「閉塞型睡眠時無呼吸症候群（OSAS）における新たな指標」が同学術集会のベストプレゼンテーション賞に選出されました。

本研究は、炎症に関与する蛋白Apoptosis Inhibitor of Macrophage (AIM) と慢性全身性炎症疾患であるOSASとの関連性に着目し、両者の関係を検証しました。血漿AIM濃度はOSASの重症度指標AHIと正相関を認め、治療後有意に低下するなどの結果から、AIMがOSASの病態を表現する新指標となる可能性を示したものです。

受賞にあたり、本研究遂行に際し直接ご指導いただいた睡眠医療学科の西島嗣生講師、櫻井滋准教授、貴重なご助言をいただいた諏訪部章教授（臨床検査医学）、滝川康裕教授（消化器肝臓内科）、高橋和真准教授（糖尿病代謝内科）に深謝いたします。

（文責：美藤 文貴）





微生物学講座 (感染症学・免疫学分野)

微生物学講座感染症学・免疫学分野は教授・佐藤成大、客員教授・小岩弘之、特任准教授・吉野直人、特任講師・一ノ渡学、非常勤講師・堤玲子、Ivo Sah Bandar-LaRocque、助教・松川直美、佐々木裕、技術員補・古澤久美、八重樫寿美子が教育・研究に携わっています。大学院生は現在のところ博士課程1名、修士課程2名（インドネシアから留学）がおります。また、研究員は頻繁に教室で研究しています。



研究テーマは大きく三つあり、「培養細胞を用いたインフルエンザワクチンの産生」「粘膜免疫の研究」「ブドウ球菌の研究」です。インフルエンザワクチンはワクチンメーカーからの受託研究で、トリインフルエンザやブタインフルエンザの流行で、焦眉の急といった感があります。粘膜免疫は海外ですでに実用化されているワクチンもあり、新たな免疫分野として注目されています。ブドウ球菌は耐性菌でも院内感染でも常に重要な問題です。それぞれのグループが精力的に研究を行っています。インフルエンザの増殖については、細胞レベルでどのようなメカニズムが増殖につながっているのか、遺伝子解析を通じて明らかにしたいと考えています。また、一方で、細菌性陰症の重要な原因菌である *Gardonerella vaginalis* のゲノム解析も手がけています。今後は、これを完成させると共に、早期診断法への応用を研究する予定です。

小さな教室ではありますが、前進あるのみです！
(教授 佐藤 成大)

看護部 (循環器5階ICU)

循環器5階ICUには、心臓血管外科と循環器小児科の患者さんが入室します。心臓血管外科は、虚血性心疾患、心臓弁膜症、大血管疾患や先天性心疾患術後のクリティカルな患者さんが入室しています。循環器小児科では、基礎疾患に心疾患があり肺炎や心不全の悪化、術前管理のために入室する患者さんが多くいます。2科ともに緊急入院があり、年齢層も新生児から老年期までと幅広く、看護師には多岐にわたる知識・技術と状況に応じた柔軟な対応が求められます。

心臓手術を受ける患者さん・御家族は、肉体的・精神的苦痛を抱えていることが多く、術前訪問により患者さん・御家族の状況や希望、訴えを傾聴し、困惑されることのないように努めています。また、集中治療ではチーム医療が重要であ

り、様々な状況に対応できるよう医師・臨床工学技士等の他職種スタッフと協力し、患者さんが一日でも早く回復できるように頑張っています。

(主任看護師 齊藤 法彦)



理事会報告

■ 6月定例 (6月24日開催)

1. 教育職員の人事について

医学部内科学講座糖尿病・代謝内科分野

教授 石垣 泰 (現 東北大学大学院医学系研究科分子代謝病態学分野准教授)

(発令年月日 平成25年9月1日付)

第112回大学報編集委員会

日 時：平成25年8月22日(木) 午後4時～午後5時

出席委員：山崎 健、影山 雄太、齋野 朝幸、藤本 康之、小山 薫、佐藤 仁、昆 由美子、佐々木 忠司、

畠山 正充、鈴木 尚子、武藤 千恵子、野里 三津子

編集後記

本号では、本年5月に開所した「いわてこどもケアセンター」について八木淳子先生に解説していただきました。学校や地域、あるいは各市町村との連携を取りながら子ども達の健やかな成長を支える「中核的な」施設が、この岩手医科大学に設置されたことを大変誇りに思うとともに、本学教職員の1人として、エールを送り続けていきたいと思えます。そして何より、子ども達、学生さん達、彼らを支える大人達の健康を心から祈っております。

(編集委員 松政 正俊)

岩手医科大学報 第443号

発行年月日 平成25年8月31日

編集 岩手医科大学報編集委員会

事務局 企画部 企画調整課

盛岡市内丸19 - 1

TEL 019-651-5111 (内線7023)

FAX 019-624-1231

E-mail:kikaku@j.iwate-med.ac.jp

印刷 河北印刷(株) 盛岡市本町通2-8-7

TEL 019-623-4256

E-mail:office@kahoku-ipm.jp



マイクロスコープを使用した歯科治療

●マイクロスコープとは

マイクロスコープとは、対象物を拡大して観察できる実体顕微鏡です。近年では患者さんのニーズの向上から、より精密な治療を求められるようになりました。マイクロスコープを使用により正確で、安全な治療を行うだけではなく、これまで、歯科医師の経験や勘に頼ってきた治療も、誰もが行うことが可能となり、日常臨床では手放せないアイテムとなっています。

マイクロスコープは、医科領域では比較的早期から幅広く使用されていますが、歯科においては1990年代にその有効性が認知されるようになりました。日本ではまだですが、1998年よりアメリカでは根管治療の専門医は、マイクロスコープを使用することが義務づけられています。



当科では、あらゆる治療にマイクロスコープを使用して、より精密で高度な治療を患者さんに提供するため、日々研鑽を積み、技術向上に努めております。

●マイクロスコープを使用した根管治療

根管治療（歯の根の治療）は、マイクロスコープが非常に有効な治療の1つです。根管は、複雑で細かい形態であるにもかかわらず、従来は術者の手指の感覚だけを頼りに治療を行ってきました。しかし、マイクロスコープを使用することで、直接根管内を見ながら正確に治療することが可能になりました。従来では見落としていた細部の治療も可能になり、治療の成功率を格段に向上させることができます。



肉眼像



マイクロスコープ像

●マイクロスコープを使用した口腔内外科手術

マイクロスコープを使用することで最小限の侵襲で、より精密に、より安全に外科治療を行う事ができます。傷口も小さく、かつ確実に感染源を除去できるため、術後の腫れも少なく成功率も格段に高くなりました。

●マイクロスコープを使用した虫歯治療

虫歯になった悪い所のみを削り取ることが可能になり、削る量も最小限に抑えることができます。また、削った部分を材料で詰める際でも、肉眼では確認できない段差も見逃すことなく、より正確に充填することができ美しい仕上がりだけでなく、虫歯の再発防止へつながります。

